

1. 評価結果概要表

作成日 2007年7月20日

【評価実施概要】

1. 調査報告概要表

事業所番号	0873900476
法人名	有限会社 久保田電気
事業所名	グループホーム マロン館
所在地 (電話番号)	茨城県かすみがうら市栄倉6182-46 (電話)029-833-0651

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年7月19日	評価確定日	平成19年12月26日

【情報提供票より】(平成19年6月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 5 月 11 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 10 人, 非常勤 2人, 常勤換算	9.2 人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造平屋 造り	
	1階 建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,100 円	

(4)利用者の概要

利用者人数	17 名	男性 5 名	女性 12 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名
要介護3	4 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 82 歳	最低 68 歳	最高 96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	神立病院 ・ 川島医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業者が福祉機器の販売を通して、福祉施設の必要性を痛感し、自然豊かな場所に立地したホームである。居室から眺める景色は緑豊かで自然を肌で感じる事が出来る。利用者と職員が一緒に育てた野菜が食卓に並んだり、近隣から野菜や果物の提供があったり、またホームの理念である普通の生活を自由に楽しく過ごしていることが窺える。1号館と2号館が長い廊下でつながっており、利用者が頻繁に行き来している。デイサービスの利用者、小学生、中学生との交流会も開催され地域密着を目指したホームである。職員、利用者とも健康が第一と考え、又毎日2回の清掃、消毒を行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価ではケアプラン、見直し、利用者の経験を生かしたケア、緊急時の不安、研修に関して改善課題であったが、ミーティングを開催し取り組みにおいて、改善を行った。救命救急を受講し職員の不安に対処したことが、職員の聞き取りからも伺えた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員数名に自己評価を実施して、他の職員に出来上がった自己評価を見てもらった。このように自己評価に対しては管理者、職員共に更なるケアの資質アップの良い機会だと捉えて新たな気持ちでスタートしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討論内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4)
	運営推進会議はまだ開催されていないが、行政の要請により現在行政と事業所代表と組織化に向け準備中である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族に対して連絡や情報提供は毎月、出納報告と共に郵送にて近況報告を行っている。入居時にホームのほか行政、国保連に連絡可能だと説明、面会時に意見等を聞くようにしている。ただし意見の言い出しにくい家族への配慮として、家族会での発言の場を提供されては如何でしょうか？
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	小学校への運動会、野菜の収穫祭への参加を利用者は楽しみにしている。小学生のクラブ活動、中学生の体験学習の受け入れも行っている。地域のデイケアとの交流も開催することが決定している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今までの理念が長い文章だったので、5月に全職員で(愛、自由、楽しく)の短く分かり易い理念に作り変えた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	普通の生活を当たり前と考え、日々のケアに活かせるように管理者から職員につたえている。職員の聞き取りからも利用者自由に普通の生活を送ってもらえるように努めているという話が出た。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の運動会、野菜の収穫祭への参加を利用者は楽しんでいる。中学生の体験学習、小学生のクラブ活動の場として提供している。ホームとしてはバーベキュー会に家族、地域ボランティアの参加のもと開催している。近隣のデイサービスの行事にも参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価をアドバイスとして受け止め、更なるケアのレベルアップを目指している。昨年度の改善項目の緊急時の不安については、全職員救急救命の講習を受講した。自己評価の取り組みは数人の職員と作成後、他の職員にも眼を通してもらい理解に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政からの運営推進会議の開催要請を受け、現在、行政と事業所代表との間で具体化に向け準備中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政からの指導により、介護相談員の訪問が毎月ある。利用者との話の内容は記録に残し、ケアに活かすようにしている。ホームから行政に出向くことはあまりないが、事業所代表が行政に出向いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書とともに、行事案内、利用者の様子を手紙にて郵送している。必要ときは電話にて連絡をしている。		電話連絡はいつ、誰に、内容は簡単でいいのでメモが残されるとなおよいと感じる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時、面会時に意見等を外部の行政、国保連に伝えることが出来ることを知らせている。家族と一緒に旅行に行きたいという要望を昨年度は実行できた。		意見の言い出しにくい家族への配慮として、家族会の開設なども一つの案として考えられる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去1年間はパート職員2名の離職があったが、利用者の混乱はない。1号、2号間で職員の往来により、利用者と同様になれりるように、配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を掲示し参加希望者には参加できるように支援するほか、職員のケアの技量に応じて管理者から参加を促している。研修受講後は報告書にて内容、反省が記録され、ミーティング時に話し合っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	茨城老人福祉協議会に加入し勉強会に参加。近隣のデイサービスの利用者とカラオケ大会を開催することが先日、話し合われた。今後グループホームとの交流も行う予定。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	他の事業所からの入居希望に対しては、家族、ケアマネと見学に来てもらい、その後利用者との面談、話し合いの上決定している。その間できるだけ職員や他の利用者となじみの関係が築けるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から人生の先輩として入浴介助時や調理時の会話の中から教わることが多くある。職員が利用者には有難うという言葉が度々出ていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の暮らしかたは、自由に普通の生活をおくってもらうようにしている。買い物、外出の希望については出来るだけ沿うように支援している。意向表出の困難な場合は表情から検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のミーティング時に職員同士で話し合って計画を作成している。	○	利用者、家族の意見、要望を聞き、課題とケアのあり方について、ケア会議を開催の上、全職員共有のケアプランをたてた内容をきちんと書いて家族に郵送し同意を得ること、またケアプランを個人記録と一緒にファイルしプランに沿った記録をとることを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化のあるときは見直しを行っている。	○	見直し期間が1年となっているが、職員の意識付けの意味からも期間をきちんと決めて、モニタリングを行い、目標、結果、評価をし、その上で見直す必要があると思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	今後はショートステイ申請、デイにむけた取り組みを考えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、利用者と相談の上、連携の医療機関に受診している。受診時は職員が付き添い、家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族からホームで終末を迎えさせたいという要望がある場合は同意書を作成し、ホームで看取る。全職員で共有し過去に看取った家族からは感謝され、職員にも達成感が生まれた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	壁に写真が飾ってあったが特に家族からはクレームはない。記録の取り扱いや、家族との話し合いの場所にも注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは大体決まっているが、利用者から突然の要望が出た場合は出来るだけ要望に沿うように努めている。基本的には理念である、自由に楽しく生活できるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介護度が高いので困難な場合もあるが、出来るだけ、食材の買出し、味付け、盛り付け、配膳、下膳を利用者と職員で行っている。職員は各テーブルに着席し利用者と会話しながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望者に対しては毎日入浴支援を行っている。時間帯についての要望は特にない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴、趣味を把握し利用者に合わせた支援に努めている。(将棋、囲碁、習字、編み物、裁縫、畑仕事、草取り)		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の食材の買出し、利用者の衣服の買い物、また、誕生日会を兼ねた外食等利用者の希望を聞き、外出、外食、筑波山登山、ドライブと出来るだけ個人の希望に沿うように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員が受診の付き添い等で少ないときは施錠するときもあるが、家族の了解は得ている。普段はセンサーにて対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署指導の下、訓練をしている。		近隣の人々に訓練の参加を呼びかけ、災害における非常食、飲料水の確保を願いたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューを保健センターの栄養士に見てもらい、助言を受けている。(カロリーをもう少し控える、野菜、果物の摂取) 利用者の状態に応じた対応の支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、廊下、玄関にソファが配置され、利用者は定位置に座ることによって安心している。さりげなく食卓に生花が飾られ、心が和む雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	三面鏡、箆笥、テレビ、テーブルの設置、家族の写真、生花、趣味の習字が飾っており、利用者が安心できる居室である。		